

経営体の概要

- ・所在地:宮城県仙台市
- ・経営体名:農事組合法人 井土生産組合
- ・作付面積:水稲 85ha、畑 15ha
- ・従業員数:15名、臨時雇用10名(平成30年4月現在)

導入技術

- ほ場管理システム
 - 食・農クラウドAkisai(富士通(株))
- 水田の水管理支援システム ((株)ベジタリア)
 - ほ場の水深や水温等の水環境をスマホ等で確認
- 可変施肥田植機 (井関農機(株))
 - ほ場内の作土深と土壌の肥沃度のバラツキに応じて、田植えと同時に適量を施肥



ほ場管理システムと
労働時間の集計結果



可変施肥田植機



水田センサのモニター画面

導入の背景

- 東日本大震災以降、農地の集積による経営面積の拡大に伴い、作業の効率化が課題となっていた。
- このため、作業の省力化・コスト削減を目的に、ICTを活用した効率的なほ場管理システムを導入するとともに、水田センサや肥料節減技術を実証することとした。

取組の特徴・効果

- ほ場管理システム
 - ・ ほ場管理システムを活用しながら、乾田直播などの省力・低コスト稲作を実践するとともに労力を園芸部門に集中
 - ・ ほ場管理システムのデータを活用し、GLOBALG.A.Pを取得
- 水田の水管理支援システム(水田センサ) 実証
 - ・ 水位確認のためのほ場見回り回数が減少
 - ・ 直播栽培ほ場では、出芽後の入水、除草剤散布時の水管理に活用することで、苗立率が向上し、除草効果が安定
 - ・ ほ場毎の水持ちの違いが分かるようになり、水持ちが悪いほ場では、次期作に向けて畦畔際の鎮圧を入念に行うなど漏水対策に活用
- 可変施肥田植機 実証
 - ・ 適正な基準基肥量(倒伏を軽減しつつ、収量が最大となる基肥量)の検討に活用
 - ・ ほ場の作土深・肥沃度の分布図データを蓄積することで、肥培管理に活用